



佃で読む

2026
1月

令和8年1月8日発行 第8号
学校配置司書 久保田浩一



新年を迎え、気持ちもあらたにスタートを切る季節になりました。学校図書館には、この一年を豊かにしてくれる物語や知識との出会いが待っています。読みたい本を探したり、思いがけない一冊に出会ったりと、さまざまな楽しみ方があります。休み時間などにぜひ立ち寄ってみてください。

今月の特集：干支にちなんで読む 馬にまつわる本紹介します

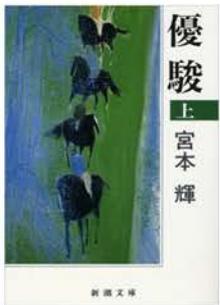
昨年ドラマ化



『ザ・ロイヤルファミリー』 早見和真/著 新潮社 913



税理士の栗須栄治はビギナーズラックで当てた馬券を縁に、人材派遣会社<ロイヤルヒューマン>のワンマン社長・山王耕造の秘書として働くことに。<ロイヤル>の名を冠した馬の勝利を求める山王と共に有馬記念を目指し…。(TRC MARCより)



『優駿 上』/『優駿 下』 宮本輝/著 新潮社 913

北海道の小さな牧場に一頭のサラブレッドが誕生した。オラシオン(祈り)と名づけられた仔馬は緑の原野のなかで育ち、順調に競走馬への道を歩みはじめるが、それと共に、オラシオンに関わる人々の宿命的なドラマが幕を開け…。

(TRC MARCより)



『馬のトレーナーという仕事ー世界最強の競走馬を育てる！』

JRA厩舎スタッフでみる競走馬育成業界(会社がわかる仕事(6)がわかる6)』



一般社団法人日本調教師会/協力 SHIGS/構成 まんが/工藤ケン Gakken 788

情熱をもって馬に接し奮闘する馬のトレーナーの仕事を、まんがを交え紹介。世界最強の競走馬をつくるために日々馬と向き合い、トレーニングする人たちの苦労や喜びを、関係者へのインタビューや取材を通して描く。(TRC MARCより)

2025年佃中でいちばん読まれた本はこれだ!



『謎の香りはパン屋から』 土屋うさぎ/著 宝島社 913



2025年、佃中で最も読まれた本は『謎の香りはパン屋から』です。

街のパン屋さんに広がる“謎の香り”から始まる、日常の小さなミステリー。

『謎の香りはパン屋から』は、読みやすさと温かさが人気で、2025年の佃中で貸出トップの一冊になりました。